

# 福井豪雨から 10 年 みどり図書館の被災と復旧座談会

平成 26 年 7 月 12 日（土）14：00～15：30 みどり図書館 視聴覚室

みどり図書館平成 16 年 7 月 18 日福井豪雨被災概要

## 1. 経過

平成 16 年 7 月 18 日未明からの記録的な豪雨により、午前 10 時ごろから徐々に浸水し、地下機械室は水没、1 階開架室は床上 23cm の浸水となった。

## 2. 被害状況

### （1）資料

1 階開架室書架最下段の資料全て（およそ 3 万冊）を上段や書架の上に退避させたことにより資料の被害はなかった。

ただし、公文書、廃棄予定資料が一部水没した。

### （2）施設設備

地下機械室水没により設置されていた空調、消防及びエレベーター設備機器が全損したほか、床上浸水により 1 階事務室及び開架室床タイルカーペット、フローリング及び OA フロアが全損した。

## 3. ボランティア

7 月 20 日（火）から 27 日（火）の 8 日間で延べ 168 名の支援があった。

## 4. 復旧作業

### （1）応急処置

- ① 水没状態地下機械室の排水作業
- ② 2 階講座室に仮設事務室を設置
- ③ 衛生面の二次的災害を防ぐため、タイルカーペット除去を含めた館内特別清掃の実施
- ④ 資料保護のため 1 階開架室資料約 14 万冊をダンボール箱詰し 2 階視聴覚室及び社北小学校に搬送 計 2,600 箱余り 後一部（400）を三秀プールへ移送
- ⑤ 書架の泥及びカビ取り作業
- ⑥ 書架乾燥のためレンガを書架下に設置

⑦ 1階部分の消毒作業

(2) 復旧工事関連業務

- ① 工事に支障となる書架を福井市野球場スタンド下に搬送

(3) 復旧工事

- ① 福井豪雨関係補正予算議決 (H16.8)

- ② 福井豪雨災害復旧工事設計

- ③ 業者決定 (入札)

福井豪雨災害復旧建築工事

〃 空調設備工事

〃 給排水衛生設備工事

〃 電気設備工事

- ④ 工事着工 平成16年12月27日

- ⑤ 工事完成 平成17年3月17日

5. 休館中の図書館サービス

- (1) 市立図書館定例休館日月曜日の特別開館

- (2) 市立図書館内にみどり館図書資料1万冊及び雑誌を配架

- (3) 10月より土・日曜日みどり図書館駐車場に移動図書館車あじさい号を  
駐車し、車載図書を貸出

6. 開館準備

- ① 書架を福井市野球場から搬入・設置作業 (平成17年3月18日)

- ② 資料を社北小学校、三秀プール及び2階視聴覚室から1階開架室に搬入

- ③ 資料配架

- ④ コンピュータ及びLAN復旧作業

- ⑤ 1階事務室開設

7. 福井豪雨災害復旧費

162,572,348円

8. 復旧開館

平成17年3月30日(水)

9. その他 広報、防災対策等

## 1 館長挨拶

本日はみどり図書館にお越しいただきありがとうございます。本日は福井豪雨から10年、みどり図書館の被災と復旧についての座談会を開催します。今回台風8号が甚大な被害をもたらしたばかりであり、これから集中豪雨が懸念される時期となりました。そこで、豪雨当時の状況を顧みること、今後の皆様の防災対策につなげられればと思います。

## 2 当時の担当者 河合啓子

福井市立桜木図書館の河合と申します。当時みどり図書館に勤務しておりましたので、当時の被害状況についてお話をさせていただきます。

### ①福井豪雨の降雨状況

足羽川の決壊を引き起こした当時の雨の状況について、振り返ってみましょう。

7月13日から15日にかけて、新潟県に豪雨を降らせた梅雨前線は、その後16日から南下し、17日未明から嶺北地方で停滞します。18日午前0時過ぎから激しい雨が降り、18日午前2時34分には大雨洪水警報と記録的短時間大雨情報が出されました。

福井地方気象台によると、7月17日午後3時からの降り始めで、美山町で285ミリ、県の雨量計では城戸ノ内町：朝倉氏遺跡の辺りで338ミリを記録しています。7月の平均降水量が230ミリなので、一月分以上の雨が半日で降ったといえます。福井市ではピークが18日午前7時台の75ミリ/時。30ミリ/時で「バケツをひっくり返したような雨」といわれます。

また、このときの降雨域が足羽川の流域と重なっており、雨が各支流からいっせいに足羽川へと流れ込んだことが足羽川決壊の大きな要因となりました。

### ②みどり図書館の立地について

では、次にみどり図書館の立地についてご説明します。このあたりはもともとはほとんどが田んぼでした。『旧社村の みてきたこと きいたはなし』（大久保 まき子 // 著）6pには、「久喜津、若すぎの田地（でんち）より狐川へ、そして足羽川に注ぐ」とかかれています。「増水で川が氾濫して、洪水となり、田畑は、泥海となる」との記載のとおり、古くから水害に悩まされた土地でもあったようです。こうした記述は『新修 福井市史1』にもみられます。

みどり図書館の西側に用水がありますが、これは社雨水幹線(やしろうすいかんせん)といい、狐川から日野川に流れます。福井豪雨時は社雨水幹線もあふれ、周辺が水没する事態になりました。

### ③福井市及びみどり図書館の被害状況

福井市としての被害は、『福井市災害記録 2004.7.18 福井豪雨』[福井市総合防災室編]74p

からにくわしく書かれておりますので、ぜひご覧ください。住宅被災 1 万 1319 世帯、避難勧告・指示世帯 3 万 4705 世帯、9 万 6 千人に及びました。

みどり図書館は、7 月 18 日午前 10 時ごろから徐々に浸水し、地下機械室は水没、1 階は床上 23 cm の浸水となりました。場所によっては浸水 26 cm に至ったところもありました。床上 23 cm は、書架の一番下の段が水没するのですが、最下段の本約 3 万冊を書架の上に避難させたため、図書の被害は防ぐことが出来ました。地下機械室にあった空調・消防・エレベーター設備や 1 階床カーペット・フローリング・OA フロアは全損、のちの復旧工事で改修されることとなります。

### 3 被害と復旧の状況 木川真由美

7 月 18 日は、定例休館日で、職員は全員指定休でした。午前 8 時から図書館長が館の様子を確認に来ていましたが、9 時頃狐川用水が増水し始めたため、緊急連絡網で職員召集をかけました。集まった職員は、本の冠水被害を避けるため、本棚の一番下の段にある本を高い場所へ移動させるという作業を行いました。(写真 1・2)



写真 1



写真 2

10 時頃から浸水が始まり、地下機械室に滝のように浸水し、機器類が水没しました。(写真 3・4)



写真 3



写真 4

その後、ハロゲン消火装置が誤作動し、非常用サイレンが鳴り始めるなど機器類のエラーが続きました。浸水が始まり漏電の危険があること、また響き渡るサイレンが近隣住民の不安を煽ることが懸念されたため、電気系統の主電源を切断しました。固定電話は不通になり、携帯電話も通話が不安定な状態が続きました。みどり職員のほか市立図書館職員や OB が駆けつけ、なんとか 15 時頃、およそ 3 万冊の本の移動作業を完了し、本の浸水は

免れました。しかし書架は1段目が浸水しました。(写真4-5)

また、空調・消防機器・エレベーター・電気設備・スプリンクラー給水設備・フローリング・床タイルカーペット・OAフロアが全損し、壁クロス・書架・カウンター・椅子・ソファ等是一部浸水し、使用不可能になりました。(写真5)



写真5

翌日からは、地下機械室の排水作業・タイルカーペットを除去しました。それから、衛生面の二次災害を防ぐため、1階部分の消毒作業を行いました。(写真6・7)



写真6



写真7

水道は損傷がなかったため、水を使った清掃作業が可能でしたが、電気がつかないため、暗闇の中での作業でした。

カビや湿気から資料を保護するため約14万冊(計2600箱あまり)をダンボール箱に詰め、2階視聴覚室や社北小学校(夏休み中)に搬送しました。(写真8・9・10)



写真8



写真9

その後、社北小学校から一部約2万冊(400箱あまり)を三秀プールへ移送しました。館

内に残されたダンボール詰めの本（約 6 万冊）に定期的に風を通し、消毒を行い、湿気から守りました。書架が木製であることから、泥とカビとりを毎日繰り返し、水濡れ部分を乾燥させるために巨大扇風機を使用することもありました。また、書架のゆがみの修正や乾燥のためにレンガを書架下におきました。12 月頃には、工事のため書架 129 台を福井市野球スタンドに搬送しました。（写真 1 1 ・ 1 2 ・ 1 3）



写真 1 0



写真 1 1



写真 1 2



写真 1 3

夏休み初日の被災であったことから、予定していた夏の工作教室の参加者に電話連絡し、関係各所にも長期休館を連絡しました。

2 階講座室に仮設事務所を設置し、電話や E メールなど情報機器の回復により市役所への連絡経路の確保は出来ました。電気はすぐに復旧しましたが、空調は翌 3 月の復旧開館まで回復しませんでした。職員やボランティアの体調管理も心配でしたが、大きく体調を崩すこともなく無事に復旧にたどり着けたことは幸いでした。

#### 福井豪雨図書・書架の保管

平成 16 年 7 月 18 日（日） 図書館第 3 日曜日で休館 福井豪雨被災（床上 23cm）

7 月 22 日（木） 1 階書架本箱詰め作業本格化

1 階書架配架図書総冊数 13 万 5000 冊

図書館 2 階視聴覚室 およそ 1200 箱 およそ 6 万冊程度

残り 1600 箱余り およそ 8 万冊はカウンター前に仮置き

7 月 26 日

社北小学校の予備教室 4 室（1 階、2 階 2 教室、3 階）に 1600 箱（各教室 400 箱）  
搬送・保管

11 月 10 日（水）

社北小学校の教室使用のため、1 階教室保管図書 400 箱 2 万冊を三秀プール更衣室へ搬送・保管

12 月 2 日（木）

市野球場スタンド下に書架搬送・保管

書架およそ 129 台（3 連複式、2 連複式等）

#### 4 閉館中の資料の貸出しについて 田中元和

被災時は夏休み直前で、これから図書館の繁忙期というときでした。私は、福井市東部に住んでおり、地区内で土石流の流失があり防止のための土嚢積みを行う中、避難所の開設にあたっていました。避難所から図書館に電話をかけ続けたけれども、いっこうにつながらないので何かあったかも知れないと思いました。翌日月曜日市立図書館は、定例の休館日で市立図書館長等とみどり図書館に行きました。

被災状況を確認後、担当職員で協議し、2つの事の対応を決めました。それは、図書館ホームページ上のみどり図書館所蔵分の利用できない旨の処理及び夏休みという事で市立図書館を定例の休館日の月曜日を閉館するという考えでした。

7月26日から8か月間、市立図書館の月曜日を復旧するまで臨時開館しました。返却されたみどり図書館の本を市立図書館の部屋に集め、料理の本等を並べました。10月からは、翌年の3月まで、移動図書館あじさい号を土曜・日曜にみどり図書館駐車場に出動させ、ました。貸出ばかりでなく、予約資料を渡したり、返却本の受け取りを行ったりしました。月曜日の休みがないため、本棚等の資料整理ができなくて、館内は乱雑になり所定の場所に資料がない時もありました。でも、一日でも早い復興開館のため、利用された方から「がんばってね」といわれたこともあり、また、「みどり図書館休館していて寂しいけれど市立図書館が月曜日も開館していてありがたい」といっていただく方もいらっしやって、臨時開館してよかったと思いました。

#### 5 ボランティアの活動について 西本真由美

9時くらいにみどり館長から図書館に水が入ってきたから来てほしいと電話がありました。自宅の文京では大雨の感触がなく、半信半疑で車に乗りましたが、足羽川を越えた橋の辺りから水かさがとても増えていることに気づいた。競輪場を越えて坂のところを上って下りただけで、周りの様子が全く変わりました。みどり図書館の山側の道は冠水していて、警備員にとめられたのですが、無理に車で通りました。そして西循環線沿いの店に車を止めて、図書館まで歩きました。着いた時には本の移動にとりかかっている職員がすで

にいました。

みどり図書館ではボランティアの受入がなかなかできませんでした。電話も電気もなく水道のみの状況で、準備が整わなかったこともありボランティアは1週間後に受入をはじめました。8日間で168名の参加がありました。最初の1週間は業者のボランティアのご助力を得ました。一般の人が参加するようになったのは2週間後です。参加いただいた方の名簿を確認すると、小学生から70代までです。また夏休み期間中ということで、中学校や高校の部活動の人たちが参加してくれました。明道中学校の女子バレー部が手作りの雑巾を持参して参加してくれました。



写真14



写真15



写真16



写真17



写真18



写真19

書架を拭いても、拭いても砂が浮き上がってきます。泥をかぶった棚を固く絞った雑巾

で拭いてもらいました。(写真14・15) 児童室は床が床張りなので、洗うことができました。書架を動かしてその裏側やその下になっている床を洗わなければなりません。書架を6・7人がかりで持ち上げ、床から動かしました。(写真16・17)

書架の消毒や、本の箱詰めなども手伝ってもらいました。(写真18・19)

床にカーペットをはりなおし、消毒のために外した棚板を元通りに直し、本を入れました。床にテープを貼り、印をつけ、書架を搬入する作業をボランティアに手伝っていただきました。(写真20・21・22)

本を元の本棚に配架する作業は、研修等で知り合った県内外の図書館職員がボランティアに来てくれました。(写真23) このような作業を経て、元の状況に戻すことができました。



写真20



写真21



写真22



写真23

## 6 防災について 危機管理室 勝木宏行

「災害について知る」と「災害に備えて知る」の二点についてお話します。第一に「災害のことを知る」ことです。この座談会に参加することや、本などを見ることで災害について知ることができます。災害発生 of 情報を入手する手段を多く持つことが必要です。ケータイ・テレビ・ラジオ・防災行政無線など方法はいくつもあります。情報をとる手段を

一つでも多く持ちましょう。

次に、誰を助けなければならないかを知ることです。市では災害時要援護者避難支援制度というものがあり、支援が必要な人を登録しています。このほかに、地域の情報を入手するのに、近所の人同士の井戸端会議が役に立ちます。例えば、運動会の振替の休みでたまたま家にいる人、急病により家で寝込んでいる人の情報など、リアルタイムで変わる地域内の情報を得ることができます。地域の方とコミュニケーションをとって情報を得ておくことは重要です。

地域のリスク知ること重要です。掲示している洪水・浸水ハザードマップを見ておくことです。洪水の際に浸水しやすいところや元々土地が低く、急な大雨で浸水しやすいところがどこかが分かります。

また、地名について知ることにも役に立ちます。例えば水にゆかりのある地名がついている場所は、昔は川や沼があったところもあり、水が集まりやすく、浸水しやすいところもあります。このほかに図書館・博物館で古い地図を見ることも役立ちます。いま住んでいる所が、昔は川や沼だったりすることもあります。土地の由来を知ることから住んでいるところのリスクを知ることが役に立ちます。

次に知ったことに対してどう備えるかについてお話します。まず、逃げる時に何を持っていくべきかをお話します。非常持ち出し袋はリュックひとつぶんを目安にしましょう。懐中電灯・タオルなど避難所で過ごすために必要なものをいれましょう。

次に、非常食です。非常食は現在いろいろな種類のを販売していますが、普通の缶詰でもかまいません。買いためておいて、消費期限が近づいたら、定期的に食べるようにすると気軽に蓄えることができます。その他に、ご家族で災害時の取り決めをしておいてください。どこへ逃げるかなど事前に決めておきましょう。災害用伝言ダイヤル 171 (ｲｲ) を使うのも一つの方法です。他の備えとしては、家具を固定すること、雨を溜めるタンクを備えることもあります。保険に入ることも備えになります。まずできることから、とりかかりましょう。



## 7 座談会

参加された方のご発言を順に紹介します。

当時のみどり図書館長 鈴間智宏

夜中に雨の音で目が覚めました。心配で眠れなかったので見に行くことにしました。7時頃、まさか災害にはならないだろうと思いましたが、降りやんできたので確認して、安心しようと図書館を見に行くことにしました。見ると、まだ用水路の上まで 30cm くらい余裕があったので、水がひくまでみていることにしました。雨が上がって明るくなったのに水がひきませんでした。それどころか第二駐車場の方をみると、溢れ出してきたので、図書館までくるかもしれないと思い、全員に招集をかけました。地下室へ行くと、どこからか水が噴き出してきたので恐ろしくなりました。いったいどこから噴き出してきているのかさっぱりわかりませんでした。地下はもうだめだと思い、1階にあるものは助けようと思いました。

水位が次第にあがってくるだけで、急に流れ込んでくるようなものではなかったのに、必死に本を上にあげて運よく作業が間に合ったのだと思います。

参加者

50m くらい近所に住んでいます。だんだんと用水の水があがってきたので、はじめ長靴をはき、それではだめだと思いズボンをまくりましたがそれでもだめだったので、海水パンツに着替えました。水は胸ぐらまで来ました。お昼には出られなくなり、自治会長が子どものゴムボートをだして、「必要なものを買いに行くけど、ほしいものはないか」というんです。あたり一面水が来ていたので、道路も田んぼもなくなり、どこでもボートで行ける状態になっていました。最近ゲリラ豪雨が多いです。自然を痛めつけてばちがあたたんじやないかと思います。

自分の姉を福井震災で亡くしました。娘が 20 歳で成人式に帰ってきて、どうでも泊まらせればよかったが神戸に戻った。あくる日の朝、神戸で地震に遭い、もう連絡がつかなくなりました。心配でご飯も食べられないし、仕事も手につかない。自分の姉を失って、また今度は娘を地震で失うのではないかと思った。テレビで神戸の火災を見て、あの中うちの娘もいるのではないかと思うと、気が気ではなかった。4 日目に大家さんから電話があったが、「あんたのところの娘さんは無事です」だけでガチャんと切れた。後で聞いたら、電話をかけるところがなく、2 時間大阪市内を自転車でもわったそうです。やっと電話を見つけてかけたが、後ろにずらりと並んでいて、長話するとたたかれてしまうので、すぐ切ったということだった。一週間くらいして、ようやくケータイが繋がった。災害は恐ろしい。阪神大震災のときは自治会長をしていたので、台帳をつくるため住んでいる人の年齢や名前などを書いた名簿を作って公民館へ出した。災害はよそにおきて、自分のところにはおきないと固く信じているところがある。前の天皇陛下が災害のときにおっしゃってい

ましたが、いつ何があってもおかしくないという具合に、考える事が防災だそうです（注：阪神大震災時の発言のようだが確認できませんでした）。防災の面で今後力をいれていきたいと思います。

#### 参加者

豪雨の当日は逃げて歩いていました。図書館がこんな災害にあっていることは、知りませんでした。知っていればボランティアできていた方に混じって、本の何冊かでも運ぶのを手伝うことができたんですが。申し訳ありませんでした。

#### 参加者

休みだったので、当日は親戚のところへ行っておりました。すると全国版のニュースに福井市の雨の様子がでていて、浸水が始まっていると知り、慌てて親戚と一緒にタクシーでなんとか家に戻りました。私にも電話で呼び出しが来ていたんでしょうが、ちょっと気がつかずにおりました。少しでも食べ物を持って行こうと思い、用意をして交番あたりまで来た時、ボランティアの方かと思いますが、「今日はとてもじゃないが行かないほうがいい。水がひいていないので明日にきなさい。」といわれ、考えたのですがその通りにしました。次の日図書館に来たら、茫然自失。カーペットは泥まみれで、机の一番下の引き出しも水浸し。地下は水没して、館内じゅうに異臭がしていました。

私は本を詰めるためのダンボールを注文しました。カーペットはどうやってはがしたのか思いだせません。箱詰めするときカーペットはあったような気がします。（注：他の参加者から指摘がありました。泥まみれで重くて一人では持ち上げられないようなものになっていました。業者さんが撤去しました。カーペットはパネル式です。）ブルーシートをしいて、箱を置いてこの箱は何番のもの（注：資料につけられた分類番号）とわけました。強度を計り、一箱に平均 50 冊として、何箱必要かという計算をしました。事務室やコンピュータ室はカーペットの下に配線が入るように複雑な溝がつくられています。この溝を掃除するのは大変だと思いました。そこは業者の方が大勢で、雑巾ですみずみまできれいに拭いてくれました。それから私たちが書架を拭き続けたのですが、いくら拭いても、白い土がうきあがってきました。隅の方は、綿棒や鉛筆に脱脂綿などをまきつけたものや、割り箸を細く削りそれに脱脂綿をまいて拭きました。カビも生えてきたので、業者に相談しましたが経験がないのでわからないといわれ、いろいろ考えました。手が荒れるのでゴム手袋をして、ハイターを薄めた液体につけた雑巾を固く絞って拭きました。その後、乾燥させるためにレンガの上に書架をのせました。レンガを工務店に買いに行ったのを覚えています。レンガの上で書架を縦にしたり横にしたり、むきをかえて乾かしました。

8ヶ月休んで開館したときに、「すいませんでした」と利用者の方に話したら、「いえいえ、大変でしたね」といわれ、人間というのはこうありがたいものだと思えました。図書館はいつも開いているもの。これが水害のためとはいえ長期間休みご迷惑をおかけした

のに、このようにいっていただき今でも感謝しています。

参加者

娘と二人で参加し、拭いても拭いても、白くなると思って拭いていました。羽水高校の野球部がダンボールを運んでいて、男の人がいると助かるんだなあと思っていた。娘を連れて来てすいません。

参加者

その日は、会社に行っていました。会社は大和田にありました。8時半に出社したときには、道が冠水し始めており、いつもとちょっと違うと思い始めていました。その日は一日テレビをつけて足羽川の水が増えていくのを見ていました。鯖江の河田地区の配送を担当していたのですが、午前中に、河田店内に水が入ってきたという電話がありました。それをかわきりに、各店舗から荷物がこないがどうなっているんだという連絡がはいりはじめ、配送トラックからは、道路が渋滞していて店にたどり着けないという連絡が入りました。そのような電話対応で一日が終わりました。

参加者

当時清水町におりました。その前日が宿直で、道路が冠水して帰れなくなったのを覚えていています。清水町は過去二回堤防が切れて、冠水した事があります。河川改修が進んでおり、福井豪雨のときに家に水がついたような被害はなかったと思います。みどり図書館がこのような状況になったとは後々聞きました。もともとみどり図書館の場所は低いところで知られている。同じような状況が起きた場合、回避できる状況になっているのか？

元館長

この場所は他の図書館の方からも、このような場所に図書館を造ることが悪いといわれるような場所です。住宅地であるため、高さの制限があり、機械室などを地下に造らざるを得なかったのが被災理由の一つになっています。入口が高くなってもいけません。身障者などの方がなるべく段差なく入れるようなバリアフリー設計になっています。図書館としてはもっと高さを高くしたかったのですが、いろいろな思いが交錯して、このような設計になっています。

災害があってから、どうするべきかと考えました。雨はいつ降るかわからない。誰もいない真夜中に降るかもしれない。周りを囲って水がこないようにしようと思いました。そこでまず、機械室の換気用の穴の周りを高く囲ってもらいました〈注：写真4の場所〉。今回の水の高さを考えた高さにしました。そのほかにドアをしめれば水が入らないようなものをつくりたかったのだが、予算の都合で難しかった。結局、何箇所かに埋めて組み立てる止水板を設置しました。正面玄関・裏の入口にも設置しました。できる限り水を防ぐ方

法を考え、最初の構想どおりにはいきませんが、それなりに最後に図書館から帰る人が今日は危ないと思ったら、一人ででも準備できるような仕組みにはなったかと思います。

先程申しましたが、本当にいろいろな方にお世話になりました。市民の皆様有難うございました。当時、館長になったばかりで、5月に母が亡くなり葬式もすみ、ぼーっとしているときでした。直後にこのような災害にあい、一体これまでどういう悪いことをしてきたんだろうと思いました。そのときは心配性なので、朝から来ていたので比較的職員にも早く連絡する事ができて運が良かった。

作業が一段落して、これから復旧開館することを考えたときに、気が遠くなり貧血で倒れそうになりました。復旧開館に関する知識が十分にはありませんでした。緊急事態だからすぐさま作業に入って、なんとなく年度内に開館できるだろうと思ったのです。また年内に開館しなければならぬとも思いました。ですが実際には、予算を計上して、議会をとらなければならぬ。さらに今回の災害はほとんど地下で、そこには電気系の配線や配管が多くあります。この配管に泥がいっぱいはいっている。これは洗えば使えるのか、細かい粉が残っていて洗って、使うと機械そのものが壊れないのかというチェックを専門の業者に依頼して仕分けます。それで被害規模がようやくわかります。それから補修にいくらかかるのかを計算します。それが終わると、交換できないものを見積もりを出し、入札にかけてそれで業者が決まって、資材を集めてようやく工事が始まる。議会の承認も必要です。やっと12月になって工事が始まりました。そして、年度をまたがないようお願いしてお願いしてようやく3月に終わりました。

工事するには、すべての本棚をどけないといけません。本棚はひどく重いのです。カーペットもはがせないほど重いのです。そして本をどこへ持っていかうかということになりました。廃校になった一光小学校へ見学に行きました。ですが、教室では少し狭かった。体育館が役に立ちそうだなと思ったら、地域の方が使っておられたんです。それを借りるのは忍びなかったし、3月に開館するにあたって大雪で、本をとってこられないのでは困る。それで山の中はやめ、市内で広さのあるところを考え、スポーツ課に相談しました。冬使わないのは野球場だ。それもバックスタンドの下があいている。そこにおくことにしました。さまざまな方のご協力があってようやくなんとかできました。復旧開館できたときには辛かったけれども、いろいろな方の協力もあり自分のベストを尽くしたと思います。

休館中いろいろなことをしてもらったのですが、本を拭く作業もしてもらいました。公共図書館の資料の弱点は汚いことです。いま近くの図書館の本を借りて先ず拭くと結構汚れがとれます。あのとき本を拭いたことは良かったと思います。

司会

みどり図書館では止水板を三箇所設置し、その設置訓練も定期的に行っております。

補足

福井豪雨後、各地で河川の工事や浚渫（しゅんせつ）が実施されました。そのなかで、平成 17 年、社雨水幹線のかさ上げ工事が施工されました。平成 21 年 1 月、狐川が日野川に合流する地点にある、排水ポンプの排出増強工事が完成しました。福井豪雨後も台風接近時には、地下室に水が何度か入っていたのですが、これらの工事の後には浸水していません。

協力 福井市下水管路課雨水対策室